

連載 竹取物語のものがたり (2)

竹取の翁とは誰でしょう。

西村昌能 (京都府立洛東高等学校)

はじめに

「竹取物語って、変なネーミングだと思いませんか？かぐや姫物語と書くのが普通でしょう。だって、主役はかぐや姫なんですから。」

これはほんとうでしょうか。主役はかぐや姫なのでしょう。今回はそれを探ってみたいと思います。

竹取の翁

「いまは昔、竹取の翁というもの有り。野山にまじりて竹を取りつつ、よろづの事に使いけり。名をば、さかきの造となむいひける。」この竹取物語の冒頭から、竹取の翁の出自を考えてみましょうか。古代、良民は、米を栽培して朝廷に納める者のみであって、狩猟や非栽培植物の採集や加工を生業とするものは賤民とみなされていたと何十年も前に歴史の教科書で習いました。竹取の翁は竹を採って生活しているのですから、この賤民集団に所属するようです。古代賤民である竹取グループの畿内での起源は、天武天皇による隼人の畿内移住に始まると言われています。朝廷は、隼人の持つ呪術性に注目し、警護役を負わせたのです。「野山にまじりて竹を取る」とは、極貧の生活を彷彿させます (たとえば柳田国男)。しかし、最近の研究、たとえば網野善彦などによれば、稲作一元論は克服されなければならないもので竹取のような非農業民が重要で、むしろ天皇直属の軍事集団である点が記憶されなければならないでしょう。難しい言葉を連ねましたが、全ての人民が米を栽培していたというのは今や空想、もしくは政治的な神話になっているのだということです。ちなみに、古事記にはヤマトタケル、イゾモタケルと並び、クマソタケルが登場します。クマソと隼人の関係も難しいものがあるようですが、私は関係が大変深く、九州南部は当時相当有力な地域であったと思っています。

畿内の隼人

現在、京都周辺には竹林がたいへん多いですが自生していたものではないと信じています。京都周辺の孟宗竹は室町時代以降中国から移入されたもので竹取物語とは縁がありません。南方起源で、奈良・平安時代からあるマダケは南九州以南が原産地であると信じられています。ここでも南方

を示唆する事柄がありました。竹は隼人が持ち込んだのかも知れないのです。かぐや姫伝説で有名なところは、奈良県の広陵町です。ここは、阿多隼人（薩摩半島の隼人族）が移住させられた所で、竹取の翁は、広陵町にあった散吉村の長であったのではないかと、というのが江戸時代の研究で知られています。後から述べる様々な竹取翁伝承では、一般には翁に名前は見つかりません。ところが、竹取物語では、「さかきの造」と名をもらっています。「さかき」を「さるき」の誤りとする説があり、この「さるき」は、「さぬき」に通じ、「讃岐」は「讃吉」ともなると考えられているのです。理系頭では難しい論理ですが、そのため広陵町の阿多隼人集落と結びつくのだそうです。同じ奈良県五條市に阿陀地区には、阿陀比売神社があります。まさしく阿多隼人の移住地です。

京都と隼人

阿多隼人は薩摩半島の隼人族ですが、隼人族にはもう一つのグループがあります。現在の大隅半島を中心として活躍した大隅隼人です。この大隅隼人の移住地も畿内にあります。（隼人の移住地は全国に散らばっています。）そこで古事記を調べて見ますと、中の巻、開化天皇の条には、「この天皇（若倭根子日子大毘毘の命）、丹波の大縣主、名は由碁理の女、竹野比賣を娶して、生みませる御子、比古由牟須美命。・・・その兄比古由牟須美王の子、大筒木垂根王。次に讃岐垂根王。・・・」とあります。垂仁天皇の条では「・・・伊久米伊理毘古伊佐知命・・・この天皇、・・・。また、大筒木垂根王の女、迦具夜比賣命を娶して、生みませる御子、袁邪辨王（をさべのおう）」ともあります。このことから、平城京の北、山城の南、木津川の京田辺市や八幡市を中心とする綴喜郡にあった筒木の宮が思い起こされます。筒木の宮は同志社大学校内にその碑がありますが、ここは継体天皇の宮であったということが日本書紀に書かれています。有力な氏族がいたのは事実でしょう。さて、大筒木垂根王の弟、讃岐垂根王は散吉につながる名前ですから古事記のこの条は、畿内の大住隼人集落と阿多隼人集落の起源を説明するものかもしれないのです。そしてかぐや姫は大筒木の垂根の王の子ども（つまり 隼人一族）で開化天皇の孫であったというのです。ただし、古事記の迦具夜比賣命が竹取物語のかぐや姫のモデルであったかどうかには疑問符が一杯つきます。そう、現実に大隅隼人を起源とするという集落が南山城にあります。それは京田辺市の大住という集落です。大住という地名自体が大隅につながりますが、その村にある月讀神社では、青年達が当時の踊り（隼人舞）を最近復元し、伝えています。この月讀神社には大隅隼人がこの地に来て建立したとのいい伝えがあります。さらに京田辺の大住や松井、八幡市の美濃山には横穴式の古墳墓が集合しています。

その一つからは、金製品が出土しています。当時かなりの勢力があったと考えられます。



写真1 筒城(筒木)宮址の石碑 同志社大学校内(西村撮影)



写真2 大住の隼人舞
<http://www7b.biglobe.ne.jp/~miyakonotukimairi/kyotofu/fu10/fu10oosumihayato09.html> から引用

竹の呪術性

さて、竹取の翁は、南九州に勢力を持っていた隼人の末裔であることが判ってきました。竹は南方のものであり、一日で1mも伸びることのあるイネ科植物です。彼らはこの木よりも強い竹を利用して様々な生活用具を作りました。たとえば箕(ミ)。これは今宮戎でも有名な財宝をかき集める用具であり、古くから呪術性を持つとされていました。かぐや姫は籠(コ)にに入れて育てられますが、この竹で編んだ籠はその目が邪気を払うので家の軒先に掲げられることもありました。籠は、そのような呪術性のあるものです。竹櫛にも呪術性があります。古事記で、イザナギが黄泉のイザナミから逃げる際に湯津爪櫛(ゆつつまぐし)を引きかいて投げ筒を生じさせているうちに逃げています。このように竹や竹製品にはふしぎな力があると信じられていたのです。また、隼人は、宮廷では白装束をまとい、犬吠えして邪気を払いました。隼人自身にも神秘性があったのでした。つまり、このような不思議な植物を扱う(竹を取るというのは竹の加工も意味しますから)竹取の翁自身、当時に人にとって神秘的な人間であったといえるのです。その彼に、不思議なかぐや姫が育てられたのです。さもありませんということでしょう。(続く)

☆・標準時の繰上げ(明石子午線の変更)とその効果・☆



写真3 大阪新世界の串カツ屋に飾ってあった沢山の箕 商売繁盛を祈願している。(西村撮影)



写真4 矢も竹で作られた。初詣でにぎわう石清水八幡宮の巨大な御神矢 (西村撮影)

標準時の繰上げ（明石子午線の変更）とその効果

清水宏一（株式会社・奈良県立大学）

はじめに

3月22日のテレビ朝日で「クイズ雑学王スペシャル」の放送があった。



その最終ステップの設問に「早起きニッポン計画」が取り上げられ、最終決戦に勝ち残った5人の芸能人のうち1人だけが正答を得て、私が日本の標準時を変える構想を解説した。テレビ放送の広報力はさすがに凄く、連休最後の夜であり、私の登場場面が9時のゴールデンタイムであった幸運も手伝ってその晩は電話とメールの洪水になった。図はホームページから